

比較家族史学会

会報 比較家族史 50

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付

郵便振替(会費) 00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他) 00180-3-604964

比較家族史学会研究大会第五〇回記念大会

○会長挨拶 岩本由輝(東北学院大学)

九時三〇分～九時四〇分

【シンポジウム1】「戦後日本における家族研究—総括」

司会 鳴陸奥彦(東北大学)・三成美保(福南大学)

「趣旨説明」 三成美保(企画委員会委員長)

日 時 二〇〇八年六月二二(土)、二三日(日)

会 場 東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育

研究棟106号室「マルチメディアホール」

〒九八〇一八五七六 仙台市青葉区川内四一

(別掲地図参照)

※仙台駅バス九番乗り場 宮教大・青葉台行、宮教大・成

田山行、宮教大行、動物公園循環のいずれかに乗車

連続性、個別化と総合化

九時五〇分～一〇時三〇分

(報告1) 池岡義孝(早稲田大学)

「戦前・戦後日本の家族研究と家族社会学—連続性と非

業所行、広瀬通経由交通公園循環のいずれかに乗車

(報告2) 若尾祐司(名古屋大学)

「ヨーロッパ家族史の影響—一九七〇年代を中心に」

九時三〇分～一時三〇分

問合せ先 東北大大学院文学研究科 大藤 修研究室

〒九八〇一八五七六 仙台市青葉区川内二七一

(報告3) 長野ひろ子(中央大)
「女性史・ジェンダー史の展開—一九八〇年代以降の変化」 長野ひろ子(中央大)

一時一〇分～一時五〇分

○昼休み

一時五〇分～二時〇〇分

【記念講演】 エーマー教授(ウイーン大学)

「ドイツと日本の比較人口史 一八〇〇～二〇〇〇年」

一時一〇分～一時五〇分

一時五〇分～二時〇〇分

一時〇〇分～一時一〇分

※生協食堂は営業していますが、キャンパス付近には食堂はありません

弁当代 一食一〇〇円

参加費 なし(会員外の方も同)

◆第一日目 六月二二日(土)

受付開始 午前九時

第2部 法政策への影響と家族の揺らぎ

比較家族史学会が発足した一九八二年当時は、家族への関心が高まり、学際的研究が飛躍的に発展しはじめる時期にあたる。学会はその後、各テーマにわたって家族の重要な問題をシンポジウムにとりあげ、二〇〇一年には、学会二〇周年記念大会(「家族—二一世紀への提言」およびソウル大会)を開催した。

しかしながら、近年、家族研究への一般的関心が低くなるとともに、学会活動にもやや翳りが見られる。「家族」そのものの揺らぎ、「家族」を特化して論じることの限界、人間集團にとつての「家族」の意義の相対化等、原因はさまざまに想定できよう。このようなかで、家族を学際的に論じることの意義を再確認し、比較家族史学会の役割を明確にするためにも、戦後(二〇世紀後半)の家族研究を振り返つて現時点での総括となし、二一世紀における家族研究の課題を展望したい。

今回の研究大会は、三つの部分からなる。統一テーマ「戦後日本の家族研究と二一世紀の課題」に則したものとして、二つのシンポジウムを配した。シンポジウム一「戦後日本の家族研究—総括」は、各時期・各分

野における家族研究の特徴を論じる。シンポジウム二「格差社会と家族」は、「格差社会」という現代的なトピックについてペア報告を試み、コメントもまじえて家族研究のさまざまな切り口を示してもらう。そして、第三の部分では、新しい問題関心や方法を有する若手報告を紹介して、二一世紀を担う研究者の発掘に努めたい。また、このたび、ウィーン大学からエーマー教授をお招きすることができた。国際的な視点からの意見交換ができることを期待したい。

(2) シンポジウム1「戦後日本の家族研究—総括」

シンポジウム1「戦後日本の家族研究—総括」は、二部構成をとる、第一部「日本における家族研究の原点と学際化」、第二部「政策への影響と家族の揺らぎ」である。第一

部は、家族社会学、西洋史、日本女性史の立場から、第二部は、家族法学、人口学、人類学の立場から、それぞれ独自の切り口で戦後の家族研究の特徴を浮かび上がらせる。

【第一部】第一報告の池岡義孝(家族社会学)「戦前・戦後日本の家族研究と家族社会学—連続性と非連続性、個別化と総合化」は、家族研究の展開の大きな見取り図を描

く。とりわけ戦後から一九八〇年代までを中心には、家族社会学の歩みを振り返り、家族研究が専門分化していくことの意義と限界を論じる。第二報告の若尾祐司(西洋史)「ヨーロッパ家族史の影響—一九七〇年代を中心に」は、一九七〇年前後の世界史的方法を有する若手報告を紹介して、二一世紀転換が「新しい歴史学」としての社会史を生みだし、そのなかで発展した家族史研究が日本の家族研究にいかなる影響を与えたかを論じる。長野ひろ子(日本女性史・ジエンダー史)「女性史・ジエンダー史の展開—一九八〇年代以降の変化」は、一九八〇年代以降、女性史研究に女性学とジエンダー概念がもたらされ、それが家族史研究にいかななる新たな展開をもたらしたかについて論じる。

【第二部】第四報告の二宮周平(家族法学)「近代家族の確立とその揺らぎ—戦後家族法学の意義と展開」は、日本国憲法の男女平等原則に則つて行われた民法改正がかえつて一九五〇年代に「近代家族」(性別分業型家族)志向の強い家族法論を生みだしていく経緯について検討する。第五報告の廣嶋清志(人口学)「人口政策の展開と家族研究—一九七〇年以降の少子化対策と

の関連では、一九七〇年代以降の出生率低下の研究と人口政策との関係を明らかにし、一九九〇年代後半に明確な少子化対策が現れ、人口学研究の大型プロジェクトが展開していく前提をさぐる。第六報告の小池誠（人類学）「『家族』なるものの揺らぎ」人類学における家族研究の可能性は、家族・親族研究が現在の人類学においてマイナーな領域となつた背景を明らかにし、「家族」概念の揺らぎを超えて家族研究がめざすべき方向を見定めようとする。

(3)シンポジウム二 「格差社会と家族」

第二シンポジウムは、各分野で話題になつてゐる現代的なトピックについてペア報告を配し、他分野からコメントをつけるという新しいスタイルをとる。テーマは「格差社会と家族」、すなわち、家族システムと経済システムとの関係である。

まず、山田昌弘（家族社会学）「格差社会と家族の変貌」は、家族システムに対しても経済システムが及ぼす影響をミクロレベル（一九九〇年代以降に顕著になる男性収入の不安定化＝格差社会の進展）とマクロレベル（近代社会における経済システムの変化）に分け、従来の家族論もジェンダー論

とともに見落としてきた論点を批判的に検討しながら、生活様式としての家族システム（再生産様式）の変化について論じる。これに対して、谷本雅之（日本経済史）「近代日本の経済発展と家族・世帯経済」は、近世～近代における日本経済の基層は「小経営」にあり、戦後の高度経済成長期には「近代家族」モデルと「小経営」モデルがともに拡大再生産されたと指摘する。こうしたシステムに亀裂が生じて日本が「格差社会」化していくのは「小経営」が存立しなくなる一九八〇年代であった。この時期から日本は雇用に依存する社会に変化し、これゆえに非正規雇用の問題性が浮き彫りになつて、「格差社会」の様相を呈することになつたと論じる。

これらのペア報告に対し、國方敬司（西洋経済史）が西洋と日本との比較についてコメントし、下夷美幸（家族社会学）は福祉国家・福祉社会という視点を組み込む必要性についてコメントする。

以上二つのシンポジウムについては、それぞれに討論の時間を設けている。活発な議論を期待したい。

三 二〇〇八年度秋季研究大会について

二〇〇八年十一月八日（土）に、相山女子大学で開催する予定です。理事会は翌九日（日）になりますので、日程の調整をよろしくお願ひいたします。発表募集等

◆事務局からの連絡

一 会費納入のお願いと連絡

年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。これは対して、谷本雅之（日本経済史）「近代日本の経済発展と家族・世帯経済」は、近世～近代における日本経済の基層は「小経営」にあり、戦後の高度経済成長期には「近代家族」モデルと「小経営」モデルがともに拡大再生産されたと指摘する。こうしたシステムに亀裂が生じて日本が「格差社会」化していくのは「小経営」が存立しなくなる一九八〇年代であった。この時期から日本は雇用に依存する社会に変化し、これゆえに非正規雇用の問題性が浮き彫りになつて、「格差社会」の様相を呈することになつたと論じる。

二 「比較家族史研究」バックナンバーについて

「比較家族史研究」の既刊分の総目次はH.P.に掲載予定ですが、既刊分（三号まで）は一冊五〇〇円に値下げして販売しております。在庫処分にご協力ください。なお、創刊号から四号までは在庫がありません。購入希望の方は、学会事務局へご連絡ください。

一 会費納入のお願いと連絡

年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。

今回は会費未納分のある方に振込用紙を同封しております。住所ラベルの右下の既納年度（二〇〇七年五月二三日現在）が更新しておりますが、同日以降の振込み、および行き違いの節はご宥恕ください。

また、学校法人名で振り込まれるときは、必ず通信欄に会員氏名をお書きください。

三 二〇〇八年度秋季研究大会について

二〇〇八年十一月八日（土）に、相山女子大学で開催する予定です。理事会は翌

九日（日）になりますので、日程の調整をよろしくお願ひいたします。発表募集等

は、後日あたらためて行いますので、し

ばらくお待ちください。

四 事務局連絡先

今年度で事務局が変わりますが、次回研究大会まで引き続き、左記の通り、東北学院大学になります。新事務局につきましては、次回の「お知らせ」でお知らせします。

〒九八〇一八五二一 宮城県仙台市青葉区
土樋一丁目三一一 東北学院大学文学部

政岡伸洋研究室 気付 比較家族史学会

電話 022-721-3360

(FAX兼用)

E-mail

◆理事会報告

日 時 二〇〇七年一〇月二八日(日)

一〇時〇〇分

場 所 専修大学一号館八B会議室

出席者数 二七名(委任状を含む)

議 題

一 新入会員および退会会員の承認について

四名の入会と四名の退会が承認された。

二 比較家族史研究について

【比較家族史研究】一二二号の進捗状況に

ついて報告された。

三 シリーズ比較家族について

現在編集作業中の各巻の進捗状況について報告された。

四 次回の研究大会について

五〇回記念大会の準備状況について報

告があった。

五 次期理事選挙について

選挙管理委員として、岩本由輝・嶋陸

奥彦・大藤修・堀田幸義・濫谷悠子・松崎

瑠美・政岡伸洋が選ばれ、事務局を東北学院大学文学部政岡伸洋研究室に置くこと

が了承された。

六 その他

【比較家族史研究】のセット販売、名簿

確認等の報告があつた。また、新入会員の承認について、迅速に対応するため、

今後は入会申込書をPDFファイルで添付し、Eメールによる持ち回り審議で承認することになった。

◆新理事名簿

【選挙理事】

太田素子・大藤修・奥山恭子・落合恵美子・
成能民江・國方敬司・孝本貢・嶋陸奥彦・白
石玲子・高木侃・福田アジオ・服藤早苗・牧

田勲・政岡伸洋・三成美保・森謙一・八木透・
山田昌弘・義江明子・若尾祐司

【推薦理事】

岩本通弥・大野啓・嘉木伊都子・黒柳晴夫・

議題

一 推薦理事の選出について

まず理事選挙の開票作業の経過について報告があり、推薦理事の選出を行った。

日 時 二〇〇八年三月二八日(金)

一三時三〇分

場所 早稲田大学三四号館二〇六〇号室

出席者数 三三名(委任状を含む)

議題

一 新会長・会計監査・委員等の選出について

新会長候補者を選出し、会計監査・委員等の役割分担を行つた。

小池誠・小島宏・小玉亮子・清水浩昭・床谷文雄・西岡八郎・藤井勝・堀田幸義・村上興匡・森本一彦(以上、敬称略)

◆新入会員

伊集院葉子（専修大学大学院生・歴史学）
宇野 勝子（総合女性史研究会・近現代史）
星 倭文子（総合女性史研究会・ジェンダー史）
横田 祥子（東京都立大学大学院生・社会
人類学）

会場案内図

川内地区

人文社会科学学部、全学教育

●土地: 820,738m² ●建物: 120,236m² (2007年4月1日現在)

地址: CES, 7900 N. 35th Street, Phoenix, AZ 85021 | 电话: 480-968-8200 | 传真: 480-968-8201 | 邮箱: info@ces.com

川内北キャンバス 〒980-8576 仙台市青葉区川内41
川内南キャンバス 〒980-8576 仙台市青葉区川内23-1

980-8576 仙台市青葉区川内27-1
電話番号案内 022(712)3800

仙台駅からのアクセス

◎仙台市営バス

仙台駅前のりば	行き先	下車停留所(所要時間・運賃)
9番のりば	宮教大・青葉台行 青葉通経由動物公園循環	東北大川内キャンバス [2-A]下車(約15分、180円)
16番のりば	広瀬通経由交通公園・川内(営)行 広瀬通経由交通公園循環	川内郵便局前[2-B]下車(約15分、180円) ※所要時間は交通状況により異なります

※所要時間は交通状況により異なります。

会場(マルチメディア教育研究棟)

